

子どもたちの健やかな成長を目指して ～園と地域が心一つに～



学校	学校運営協議会	地域学校協働活動推進員等数 (赤字は内小学校運営協議会委員数)	地域学校協働本部
京都市立 上賀茂幼稚園	上賀茂幼稚園学校運営協議会「カモンサポートチーム」 平成27年3月5日 指定	地域学校協働活動推進員 0名 0名 地域コーディネーター 1名 0名	—



取組の背景及び目標や目指す姿

背景

今年創立70周年を迎える本園は、創立当初から多くの地域の方々から温かく支えていただいている公立幼稚園であり、上賀茂地域全体の幼児教育の拠点として、地域の宝物として、地域と共に歩んできた歴史がある。そのため、本園の目指す幼稚園像として、「保護者から信頼される幼稚園」「地域から心の拠り所とされる幼稚園」の2項目は外すことはできない。子どもたちが園・地域・保護者に温かく見守られながら心豊かに育つため、園児による地域行事への参加等を含め、「地域の子は地域で育ち地域で育む」という理念が具現化された園経営が求められている。

目標や目指す姿(学校)

心豊かにいきいきと心身ともにたくましく育つ子

目標や目指す姿(地域)

地域から心の拠り所とされる幼稚園



上賀茂幼稚園学校運営協議会「カモンサポートチーム」の特徴

委員の立場や属性等

- 自治連合会及び各種団体の長
 - 隣接する小学校の校長
 - 学識経験者(大学教授〔幼児教育〕)
 - 現PTA会長
 - 元本市立小学校長
 - 歴代PTA会長
 - 児童館長
- など、計 8名で構成
年間平均 6回程度開催

効果的な運営の工夫

定例の学校運営協議会(理事会)は学期に1回とし(年3回)、行事等の必要に応じて臨時的な会議も追加で開催している(年3回程度)。さらに、園長が日常的に委員を訪問し、取組を報告したり意見を伺う機会を設けている。また、幼児教育の専門家である委員には、保育内容の意義付けや分析のため月1回園を訪問していただき、アドバイスをいただいている。その他、上賀茂全地域住民対象に学校運営協議会主催で賀茂川探鳥会を開催したり、自治会とのつながりが深い委員と交流の機会を多く持つ等、地域とのつながりを日常的に深めるよう心掛けている。併せて、園行事を通して上賀茂神社やその関係者の方々とのつながりも深めている。



特徴的な取組と成果・効果

学校運営協議会

コロナ禍で公共交通機関が使えなくなり、従来園外保育として実施していた登山活動を実施できなくなったことについて園から学校運営協議会に相談があり、理事会で対策を検討した。学校運営協議会が主体となって地元自治会にも相談し、地域の各種団体や保護者等で協力して地域のハイキングコースの整備を行い、園から徒歩圏内の場所で園外保育の場を確保することとした。



学校運営協議会(理事会)の様子

地域学校協働活動

地域にあるハイキングコース「大田の小径」の整備を行う際は、地域全体で行うこととし、地域の各種団体総出となって、この数年台風等の倒木で使えなかったコースを元のハイキングコースに整備した。これにより、園外保育のみならず地域の小学校でも活用できるようになった。なお、山登りの行事が復活してからも、園では継続して本コースを活用している。



大田の小径登山

「コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的実施」のための工夫等

学校運営協議会委員は担当する企画推進委員会(地域学校協働活動を企画・調整する学校運営協議会内の組織)の活動にも適宜参画していることから、学校運営協議会の理事会で議論した内容は、スムーズに企画推進委員会に共有されるシステムとなっている。また、園のPTA本部役員(6名)は全員企画推進委員を兼ねており、理事会での議論内容が実際の活動へとスムーズに連携されるようになっている。さらに、学校運営協議会委員には自治会役員にも参画いただいていることから、委員自らが自治会に対して学校運営協議会での議論内容を情報共有し、地域による園への支援活動につなげてくださるシステムとなっている。

取組

成果・効果

学校運営協議会は園行事を中心として様々な園運営にかかわるだけでなく、上賀茂地域全体に関わる自治会ともつながりが深いため、年間を通して数多く開催される地域行事の際には、常に自治会も園の実態に即した支援をしてくださっている。園児が地域行事に参加する際には、園児の交通安全を最優先に、引率のための人員配置もして下さる。これらの動きは、園から情報を提供する場合もあるが、学校運営協議会委員からの直接の情報提供も大きな役割を果たしている。

また一方で、学校運営協議会の発信は、園の取組を地域全体の取組につなげる役割も果たしている。今回、上記に特徴的な例として掲げた「大田の小径」ハイキングコース整備は、コロナ禍で園外保育の登山体験ができないという園からの要請にこたえるべく、学校運営協議会からの提案が自治会に伝わり、地域に既に存在していたハイキングコースを利用するために下見・整備計画・整備と言う一連の流れを自治会が計画し、各種団体に声掛けをした中での実現であった。地域の消防分団がチェーンソーを繰り出して、コースを塞いでいた樹木の伐採や切出しに尽力された結果、コース整備が完了し、本園の園児や地域の小学校の児童が校区内で登山経験をするにつなげたという大変大きな成果を生んだ。

また、上賀茂再発見の取組では、「園児たちに賀茂川の自然を見せたい。バードウォッチングを経験させたい。」という園の願いを学校運営協議会が理解し、学校運営協議会が発信者となって上賀茂地域全体に声掛けをし、本園・地域のこども園・地域の小学校や中学校・地域住民の取組にまで広げ、毎年恒例の地域行事となった。

このように、学校運営協議会は、園運営のための支援を様々な角度から実行できる組織であり、地域と園をつなぐ太いパイプ役としての役割も大きい。学校運営協議会制度が目指す「地域・家庭が連携・協働して学校園を支援する組織」として、学校運営協議会は理想的な役割を果たし、園運営においてはなくてはならない存在となっている。